

# 『補助金等財政運営について』

## 1 調査事項

恩納村補助金等財政運営について

## 2 目的

予算編成及び予算配分の在り方について、条例、規則、補助金交付審査基準、補助金チェックシート等に沿った財政運営、予算執行がなされているかを調査する。

## 3 調査方法

予算編成資料、条例、規則、補助金交付審査基準、補助金チェックシート、領収書等による調査及び関係者からの聴き取り調査

## 4 調査対象補助団体

村長より提出された82件の中から、次の8件の事業団体補助金に

ついて調査を行った。

- ①琉歌大賞実行委員会
- ②うんなまつり実行委員会
- ③恩納村心豊かなふるさとづくり推進協議会
- ④恩納村むら興し協議会
- ⑤恩納村婦人会
- ⑥恩納村婦人団体連絡協議会
- ⑦恩納村民生委員児童委員協議会
- ⑧恩納村老人クラブ連合会

## 5 期間

自 平成28年3月17日  
至 平成28年11月28日

## 6 調査構成員

総務財政文教委員会  
委員長 又吉 薫  
副委員長 外間 勝嘉  
委員  
喜納 正誠 山城 良一  
吉山盛次郎 又吉 貢  
平良 幸夫 山田 政幸

## 調査に至る経緯

村の財政状況を考察すると、歳入財源は軍用地料やホテル等事業所、大学院大学関連の高額所得者の移住等により村民税等が増加し、また大型ホテルや事業所等の進出、大学院大学関連住居施設の建設等により、固定資産税が増加するなど、税収が伸び好調に推移している。

その一方、歳出面では人件費、扶助費、物件費等の義務的経費が年々増加傾向にある。更には、公共施設の老朽化等による更新や修繕など維持管理が、将来において莫大な財政需要が予測され、事務の合理化、効率化に向け財政支出の圧縮努力が必要である。

村当局としても、これまでの行財政改革プラン等で、補助金の適正化など、補助金の圧縮に向けて検討するとしたが、その成果がみられないことから今回の調査に至った。

## 委員からの指摘事項

- ① 事業費としての支出が少なく、役員等の人件費的な支出が多いため、団体を維持するための補助金となっていると判断せざるを得ない。
- ② 事業費の項目で研修費が支出されているが、飲食費等の事業目的とは相違した支出が多く、事業計画書や領収書でチェックも必要である。
- ③ 経年的にみて、毎年ほぼ同額の補助金申請に対し、同額交付となっており、交付審査基準や補助金チェックシートにおけるチェックが形式的になっている。
- ④ 不用額や繰越金に関する精査が徹底されてなく、経費削減の意識がみられない。
- ⑤ 同一人が同一会議に出席した際、3団体から日当が支給された事例もある。

# 『恩納村 所管事務調査報告』



## 各課長からの現状説明と対応策等について

① 団体監査により監査は行なわれているが、担当課として全補助団体に対し、領収書チェックをしていない現状がある。

② 不用額や繰越金について、口頭で指導しているが改善が見られない。

③ 今回の指摘により、事業計画書の事業内容と実際の活動内容が乖離していることが理解できた。今後、領収書チェックを含め、予算執行について指導を検討していく。

④ 今後、活動が低下している団体、下部組織の加入率が低い団体、事業や役員が重複する団体について、

## 委員からの要望提案

各団体の現状や必要性、ニーズ等を把握し、担当課を含め協議し、整理統合等に向けて検討していきたい。

① 構成員や事業が重複する団体が、3団体ある。その中の1団体に対し、事務委託料として支出があり、補助金運用としては不適切であり、団体の独自性や独立性の観点から、3団体は整理統合し、補助金の削減に努めるべきである。

② 各団体の役員、会員は前例主義で頑張っているが、活動経費に不適切なものが散見され、担当課は運営費、事業費、繰越金など補助金交付審査基準を熟知した上で、村民ニーズや社会環境に見合った事業団体なのか、検証し補助金の審査をして欲しい。

③ 民生委員、児童委員協議会の活動は、貧困や児童福祉問題など、今まさに時代が必要

とする事業活動であり、活動費は増額の検討も必要だと考える。

④ 団体によっては、毎年、交付審査基準を超えた繰越金が発生しているが、毎年申請額と同額の補助金を交付しており、補助金を原資とした積立金は、不適切な処理と考える。真に必要な検討し、補助金額の削減も検討すべきである。

もし将来、事業資金を必要とするのであれば、その都度、事業内容を検証し、新に事業資金として交付を検討すべきである。

⑤ 今後、新たな事業や団体がないかを含め、定期的に見直す。今回の調査結果を今後の予算編成に活かし、経費の削減に努めて欲しい。

## 情報公開について

補助団体や補助事業は、村民に密着したのも多く、村

## 総括 意見及び提言

民の関心も高い。補助事業名、事業内容、補助金等を村民に対し、広報誌やホームページ等で定期的に知らせ、村民と情報を共有し、透明性や説明責任を果たすことも大事と考える。

調査の結果、条例、規則、交付審査基準等に抵触する不適切な経費の支出がある。今後、補助事業だけでなく、村の各種事務事業の合理化、効率化を図り、無駄をなくし、経費の削減に努めるべきである。

更には、事業の必要性や緊急性、優先順位等を考慮した公金の配分、予算編成を行うことを期待する。  
以上、意見提言し、今後、恩納村が益々発展することを期待して、所管事務調査の報告とします。